神奈川陸上競技協会　審判講習会

2025年度　日本陸上競技連盟
競技規則修改正のポイント

神奈川陸上競技協会
競技運営委員会審判部

1

競技規則修改正のタイミングについて

JAAFの競技規則修改正のタイミング

２月　全国競技運営責任者会議
３月　理事会
４月　実施

WAの競技規則修改正のタイミング

従前　８月の評議会で決定し、１１月から実施
最近　年３回程度おこなわれる評議会で決定、即時実施
　　軽微なものや運用については不定期

2

《修改正１》スタート時のスターターと審判長の役割の明確化

CR22.6

スターター　：　不正スタートの判断

審判長　：　スタート時における不適切行為の判断

3

《修改正２》結果に用いる略号の使い方

CR25.4　“ｒ”試合放棄・離脱

背景　混成競技において途中で棄権したにもかかわらず、得点表に“ｒ”を記載するケースがある。
正しくは“DNF”

修改正前　フィールド競技・混成競技
⇓
修改正後　フィールド種目
（混成競技のフィールド種目を含む）

4

《修改正3》競歩競技における距離の変更

CR32およびCR34、TR54.4.1

2025.12.31まで

400mトラック
5,000m　10,000m　20,000m　35,000m
50,000m

道路のコース
10km　20km　35km　50ｋｍ

5

《修改正3》競歩競技における距離変更

CR32およびCR34、TR54.4.1

2026.1.1から

400mトラック
5,000m　10,000m　ハーフマラソン(21,097,5m)
マラソン(42,195m)　50,000m

道路のコース
10km　ハーフマラソン(21,0975km)
マラソン(42,195km)　50ｋｍ

6

《修改正3》競歩競技における距離変更

CR32およびCR34、TR54.4.1

2026.1.1から　2種目を世界記録・日本記録として公認

400mトラック
ハーフマラソン(21,097,5m)　マラソン(42,195m)

道路のコース
ハーフマラソン(21,0975km)　マラソン(42,195km)

7

《修改正４》競歩競技における日本記録認定要件

CR34.4.6

修改正前　少なくとも1人のJRWJ以上の資格を持った
競歩審判員が競技中歩型の判定をおこない、
日本記録申請書に署名

⇓

修改正後　少なくとも3人のJRWJ以上の資格を持った
競歩審判員が競技中歩型の判定をおこない、
日本記録申請書に署名

8

《修改正5》日本記録の記号

CR34.10〔注意〕

WA：2024年1月から、各国のナショナルレコードについて、WRk大会でマークされた記録のみを認定

JAAF：非WRk大会でマークされた記録も日本記録として認定

WAが認める日本記録とJAAFが認める日本記録が一致しないケースが発生

《修改正5》日本記録の記号

修改正　2024年1月以降の記録で、非WRk競技会でマークされた日本記録がWRk競技会でマークされた記録を上回る場合には、以下の略号を付けて区別する。
（2024年1月以前の記録で、引き続き日本記録であるものには略号なし）

（W）：WRｋ競技会でマークされた日本記録
（J）：非WRｋ競技会でマークされた日本記録

【例】女子800m
（W）2’00”45　杉森美保　2005.6.5
（J）1’59”93　久保凛　2024.7.15

《修改正6》上訴をおこなうことのできる競技会

TR8

修改正　〔注釈〕上訴をおこなうことができるのは、ジュリーが置かれている競技会のみ

※ジュリーが置かれていない競技会では審判長決裁が最終判断となる

《修改正7》フィールド競技で現場抗議がおこなわれた際(TR8.5)の記録の扱い

TR8.6

（現状）〔国際〕その抗議が認められれば競技を続けることができないはずの別の競技者も競技を続けることが認められた場合、抗議の扱いがどうなったかに関わらず、競技継続が認められた競技者の記録や最終成績は有効

⇓

（修改正）〔国内〕TR8.5を適用した場合は、当規則も適用

《修改正８》上位大会進出のため追加試技をおこなった際の記録の扱い

TR11.4〔国内〕

（修改正）
上位大会出場者の選出方法は主催者判断。
抽選、追加レース、追加試技のいずれでも可。

追加レースや追加試技で達成された記録は、当該競技会での順位決定とは無関係であるが、個人(チーム)の最高記録、ランキング、参加標準記録といった目的では有効なものとして取り扱われる。

《修改正9》上位大会出場枠の決定のための試技方法（高さを競う跳躍）

TR26.9.5〔国内〕

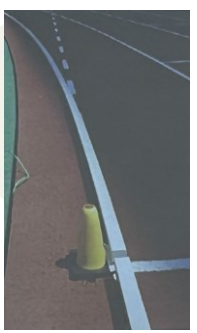
（修改正）上位大会出場者の最終順位に同順位の競技者がいた場合、その出場者の決定にあたっては、１位決定のジャンプオフ方式を適用することができる。

主催者判断で、「抽選」「３回試技」「ジャンプオフ」など決定する。
競技注意事項に明記しておくことが望ましい。

《修改正10》曲走路と直送路の変わる位置のマーク

TR17.3.3、TR17.3.4への対応
- 直走路部分で内側に入った、踏んだ
- 曲走路部分で内側に入った、踏んだ

コーナーの入口・出口で曲走路から直走路、直走路から曲走路に変わる位置がわかるように、そのポイントのトラック内側にコーンを設置する（第1コーナーは除く）。



《修改正11》500m・600mの競技方法

TR17.5.1〔国内〕

【500m競走】

- 完全セパレートレーンで実施
- 第2曲走路に100mのスタートラインを基準とした階段スタートラインを設定
- 実施できるのは、スタート位置の標識が設置されている競技場に限る。

《修改正11》500m・600mの競技方法

TR17.5.1〔国内〕

【600m競走】

- セパレートレーンでスタートし、途中からオープンレーンで実施。
- 第2曲走路に400mと同様の階段スタートラインを対称的に設定。
  スタート位置はメドレーリレーの２走のスタート位置。
- 300mまでは（曲走路を2回走るまでは）セパレートレーンとし、800m競走のブレークラインからオープンレーン。
- メドレーリレーの１走のスタート位置の標識が設置されている競技場に限る。

17

《修改正12》風力計測

TR17.12〔国内〕

2024年度より国内の「記録公認対象」種目となった150mの風力計測時間を明示

150m　　10秒間（計測方法は200mと同じ）

18

《修改正13》トラック競技における給水・スポンジ

TR17.15.3

（現状）　競技者はいつでも、スタート地点や主催者が設置した供給所で受取った水や飲食物を手に持ったり身体につけたりして持ち運んでもよい。

（修改正）競技者は、スタート地点から持ち込んだり、主催者が設置した供給所で受取ったりした水や飲食物を、いつでも手に持ったり身体につけたりして競技をおこなっても良い。

19

《修改正14》ランキングと予選の組みあわせ

（現状）

TR20.3.1

最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、シードを決定し、ジグザグ配置によって予選の組を決める。

TR20.3.2

予選ラウンド等を行った場合、次のラウンドの組の編成は前のラウンドの成績によって行う。可能な限り、同じ所属の競技者は異なった組に入れるようにする。

TR20.3.3

競技者をジグザグに配置する。

20

《修改正14》ランキングと予選の組みあわせ

（修改正）

TR20.3.1

最初のラウンドにおいて、競技者は予め決められた期間内に達成された当該種目の有効な記録のリストから、または適用される規定によって、順位付けをおこなう。

TR20.3.2

予選ラウンド等をおこなった場合、次のラウンドの組の編成は前のラウンドの成績によっておこなう。

TR20.3.3

TR20.3.1、TR20.3.2のどちらも（最初のラウンドも、それ以降のラウンドも）それぞれ順位付けをおこない、競技者をジグザグに配置する。

《修改正15》長さを競う跳躍競技の計測方法

TR29.9

（現状）　跳躍距離は、身体の一部または身につけていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線までを計測する

（修改正）跳躍距離は、身体の一部または着地する瞬間に身につけていたものが着地場所に残した痕跡の踏切線に最も近い箇所から、踏切線までを計測する

《修改正16》WRk競技会で使用する投てき物

TR32.1〔国内〕

（現状）　ワールドランキングコンペティションでは WA認証品のみを使用する。

（修改正）ワールドランキングコンペティションでは 本連盟検定品かつWA認証品のみを使用する。

《修改正17》ハンマー投の可動パネルに関連して

TR37.4〔注意〕

（現状）　左側の可動パネルは右投げの競技者、右側のパネルは左投げの競技者のために使用される。

（修改正）左側の可動パネルは反時計回りで投げる競技者、右側のパネルは時計回りで投げる競技者のために使用される。

《定義》Wrｋ競技会での適用規則

WAが開催または認可する競技会
エリア陸連が開催または認可する競技会
⇓
WA〔国際〕規則

加盟団体（各国陸連）が開催または認可する競技会
例：日本選手権、インカレ、インターハイ、地域選手権等
⇓
一部を除き、加盟団体規則（国内規則）でも可

25

《定義》Wrｋ競技会での適用規則

一部を除き、加盟団体規則（国内規則）でも可

「一部」とは

WA規則〔国際〕適用が必要
- 競技場　WA認証クラス2以上
- 申請　60日前までに開催申請
  24時間以内に記録申請

26

《定義》Wrｋ競技会での適用規則

一部を除き、加盟団体規則（国内規則）でも可

「一部」とは
〔国際〕適用の考え方
- 必ず適用しなければならないと明記のあるもの
- 〔国際〕を適用しないと、競技者にWA規則より有利になるもの

例　TR4.3　同時申込（不在時はパス扱い）
　　TR32.1　投てき物（JAAF検定品かつWA認証品のみ）
　　TR39.8.4　混成競技のバーの上げ幅
　　（HJ:3cmPV:10cm）

27

《確認》リレー競技におけるユニフォーム

TR5.1
〔国内〕全国的な競技会でのリレー競走においては、
チームの出場者は同一のユニフォームを着用する

ユニフォームを統一する目的
⇒監察員の判断を補助するため

周囲から見て同じチームであると判断できればよい
- 同色であれば形状の違いは問題ない
- チーム名「漢字」「ローマ字」表記が混在可

28

《確認》靴規程運用の補足

シューズの厚さ計測を規定に準じて正確におこなうのは困難であるため、審判員による計測は求められていない。

ただし審判長の裁量によりシューズチェックを実施することは可能。

承認シューズかどうかは、リストで確認できる。
https://certcheck.worldathletics.org

29

日本陸連主催大会等での事例から学ぶ

【審判員の対応】

・言葉遣いを始め、選手への対応が丁寧でないと、それがクレームという形になる事案多数。
・《監察》 怪しい事案にも必ず黄旗を上げること。黄旗が上がらない事案をビデオ映像の確認により失格にした事例あり。
・《跳躍》（走高跳）強風でバーが落ちた際のやり直しの試技。ラウンドの最後に回してしまったが、連続試技の時間設定で、次選手の前に実施すること。
・《伝達》（投擲）有効試技を無効試技と扱ってしまった。『マル』と『ファール』という言葉を使っていたため、聞き取りミスが発生。
・《出発》 マイルリレー（3・4走者）の待機順の確認ミスによるトラブルが多い。
・《決勝周回》 周回の「16周目」「17周目」と、周回遅れの競技者「16番」「17番」が混在する場面が発生した。発信する言葉を工夫するなどして、ミスのないよう工夫した。

30

日本陸連主催大会等での事例から学ぶ

【部署間の連携】

・写真判定で不具合が発生し、関係部署が対処するも（競技会はストップ）、総務に報告が無く、何が起こっているのか把握できず、適切な対応ができなかった。
・砂場の競技で、準備が完了しているのに、コーンを取り除き、跳躍開始の指示をなかなか出さない。マグサインの表示が変わるのを待っていたためで、表示を出す者とコーンをどかす者の打ち合わせがなく、それぞれの思い込みでこのような遅延が生じた。
・スタートのやり直しについて、カードが出される前にアナウンスをしてしまった。インカムで報告があった内容をアナウンスしたのだが、現場を見て状況を把握していなかったため、不適切なタイミングでのアナウンスとなった。
・トラックの競技時間が変更になることを、事前に関係部署に知らせることなくアナウンスしたため、混乱を招いた。

31

日本陸連主催大会等での事例から学ぶ

【審判員の判断】

・コール漏れで失格となった競技者に、競技者係が「とりあえず現地に行け」と指示。現地で混乱を招いた。
・走幅跳で踏切板50㎝手前で踏切り、走り抜けるも、二歩目が砂場に痕跡を残す。有効試技となるが、主審が旗揚げを躊躇している間に、砂場の痕跡を消してしまった。
・フィールド競技で、試技開始の合図で主審がコーンをどけると、競技者が「開始したくない」と申し出た。主審はそれに応え、再びコーンを設置し、タイマーを動かさなかった。

【スタート】

・SISが使われている競技会でも、目視での判定が根拠となる。

32